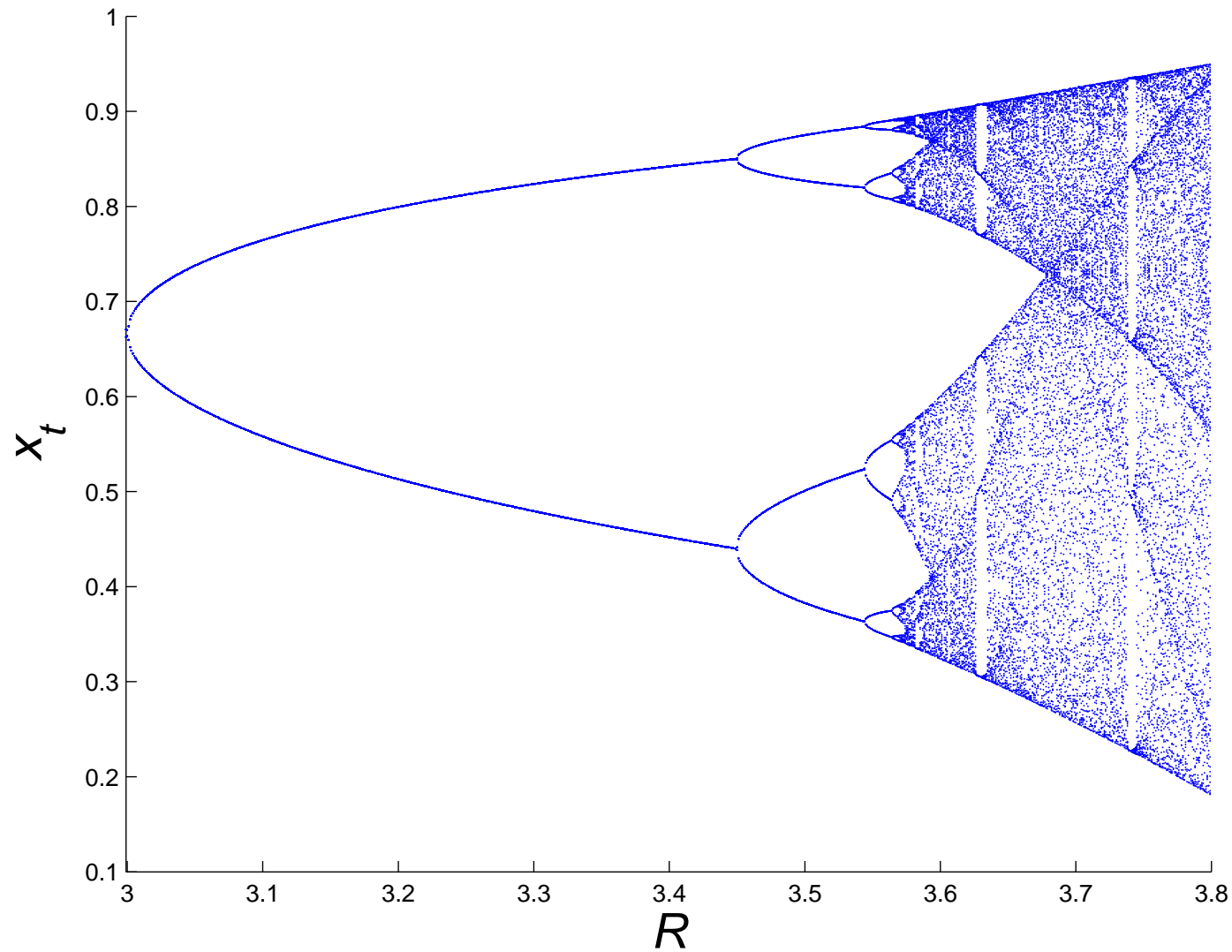
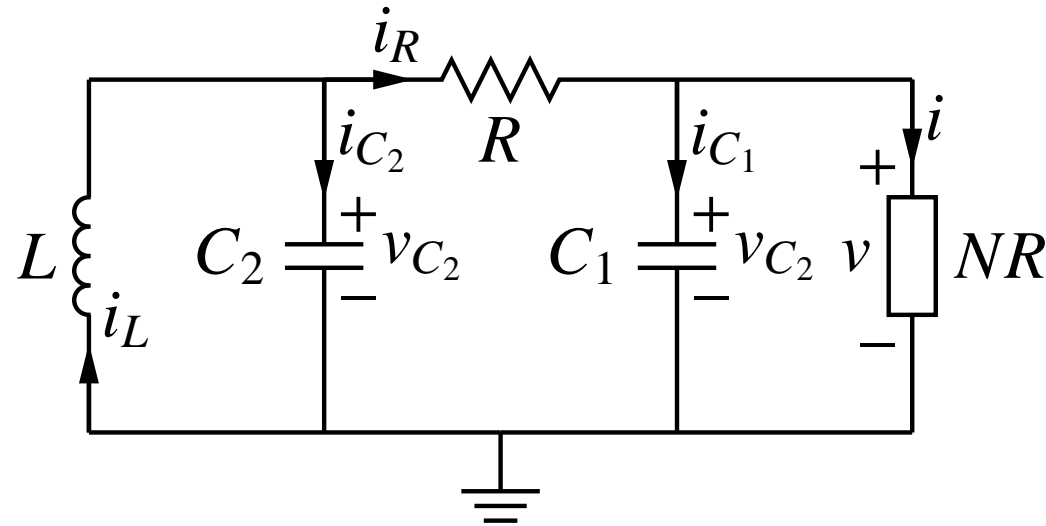


# Period Doubling Bifurcation



# Chua 回路



$$\begin{cases} C_1 \frac{dv_{c_1}}{dt} = G(v_{c_2} - v_{c_1}) - g(v_{c_1}) \\ C_2 \frac{dv_{c_2}}{dt} = G(v_{c_1} - v_{c_2}) + i_L \\ L \frac{di_L}{dt} = -v_{c_2} \end{cases}$$

但し,  $i = g(v) = m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)|v + B_p| + \frac{1}{2}(m_0 - m_1)|v - B_p|$

# $i - g(v)$ 特性

$$i = g(v) = m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)|v + B_p| + \frac{1}{2}(m_0 - m_1)|v - B_p|$$

1.  $B_p \leq v$  ( $v - B_p \geq 0$ )

$$\begin{aligned} g(v) &= m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)(v + B_p) + \frac{1}{2}(m_0 - m_1)(v - B_p) \\ &= m_0 v + (m_1 - m_0)B_p \end{aligned}$$

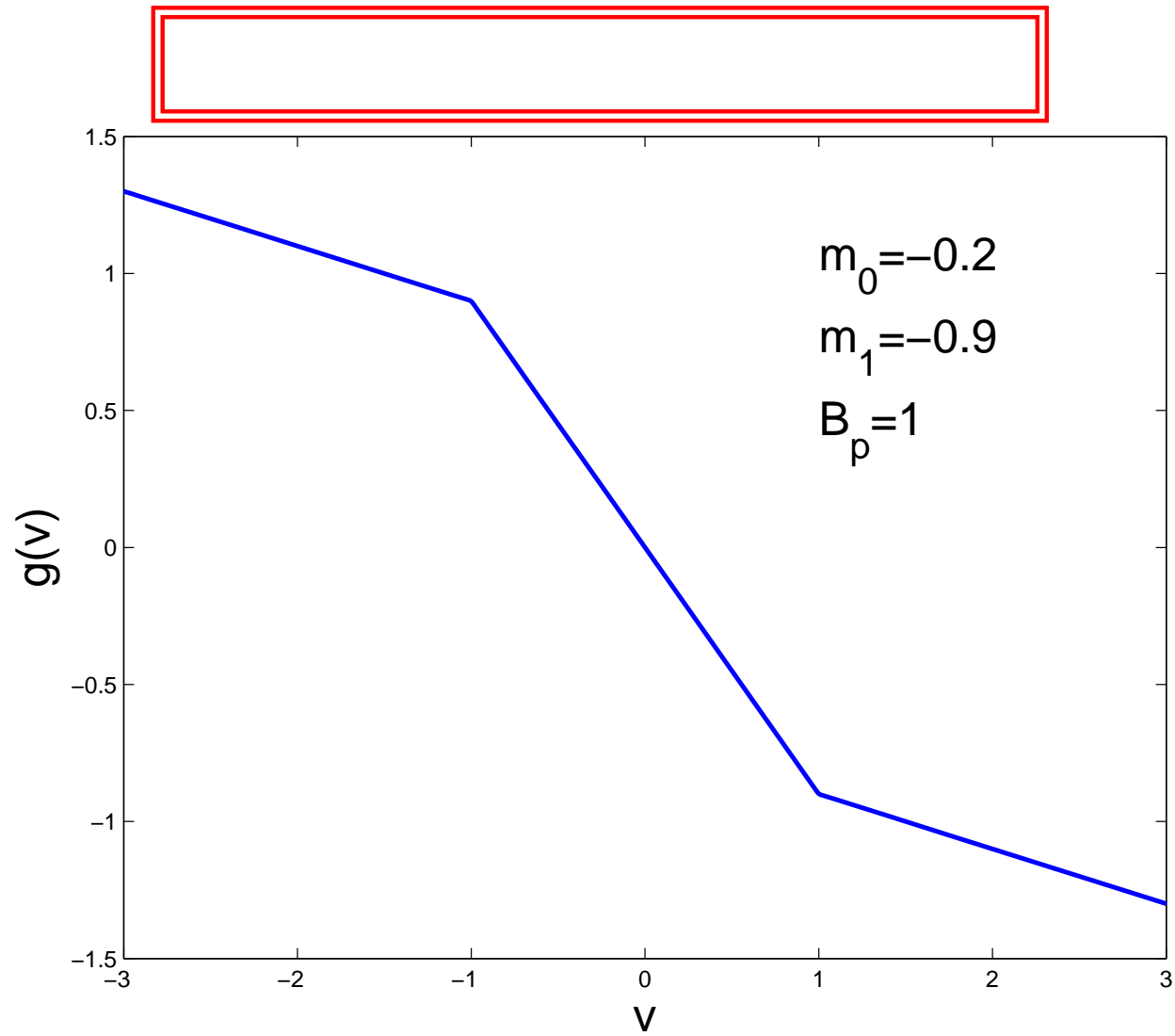
2.  $-B_p \leq v \leq B_p$  ( $v - B_p \leq 0, v + B_p \geq 0$ )

$$\begin{aligned} g(v) &= m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)(v + B_p) - \frac{1}{2}(m_0 - m_1)(v - B_p) \\ &= m_0 v + (m_1 - m_0)v = m_1 v \end{aligned}$$

3.  $v \leq -B_p$  ( $v + B_p \leq 0$ )  $-B_p \leq v \leq B_p$

$$\begin{aligned} g(v) &= m_0 v - \frac{1}{2}(m_1 - m_0)(v + B_p) - \frac{1}{2}(m_0 - m_1)(v - B_p) \\ &= m_0 v - (m_1 - m_0)B_p \end{aligned}$$

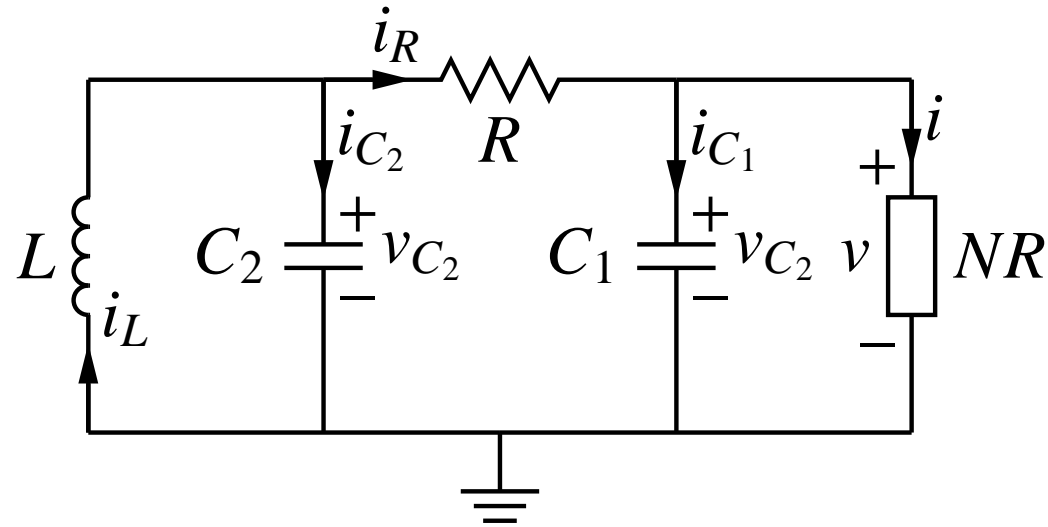
# $i - g(v)$ 特性





# ダブル・スクロール

- 松本隆 (早稲田大学) , Leon Chua (UC Berkeley) ら
- Chua 回路 (非線形抵抗を含む電気回路) から生成されるカオスの一例



- カオスへ至るルート (周期倍分岐) などをオシロスコープで観測可能

✌ デモンストレーションを見てみよう。

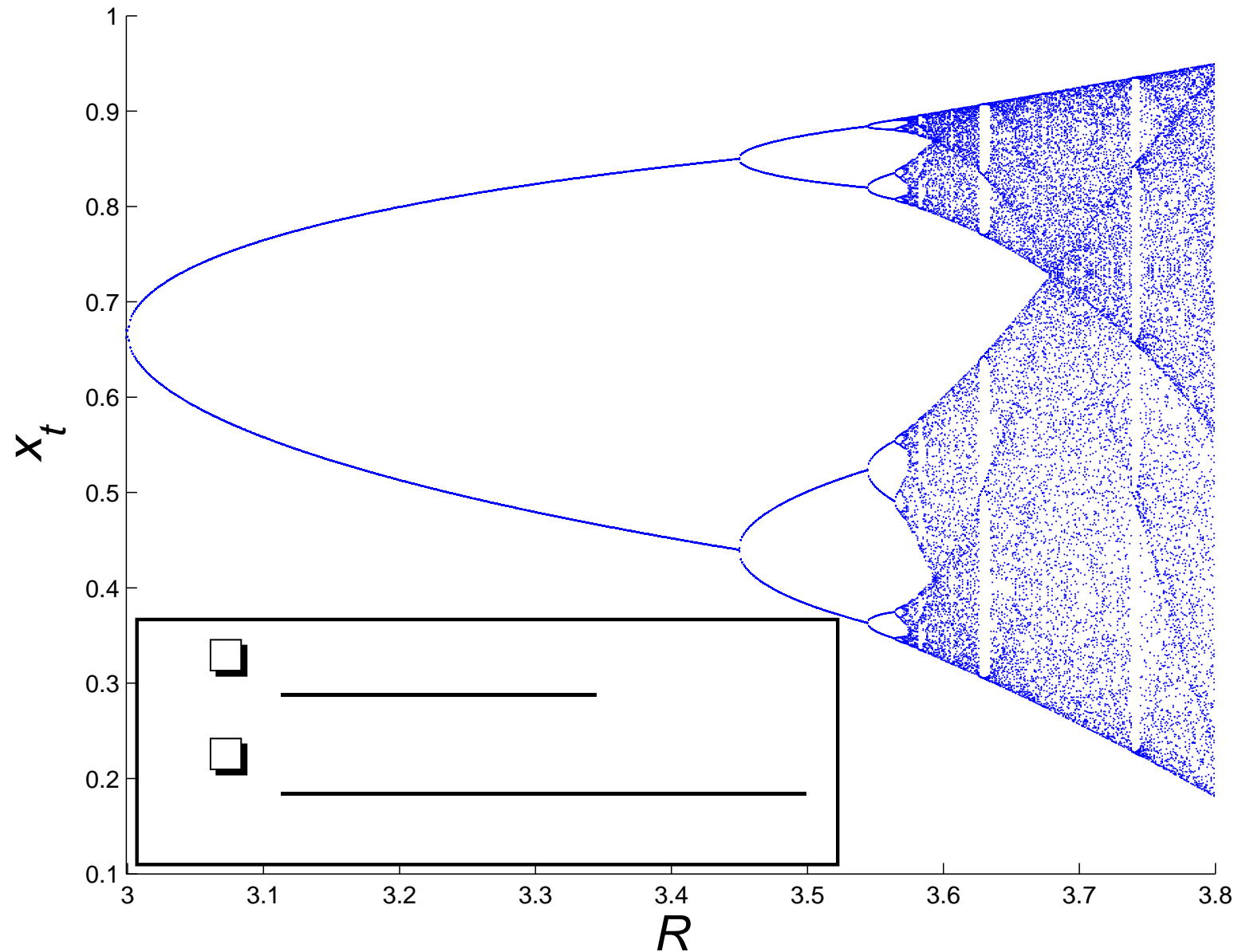
# 演習

- 固定点 (周期 1) から周期 2 へと分岐する点は,  $R = 3$  であった.
- 周期 2 から周期 4 へと分岐する  $R$  の値を求めなさい.

## 👉 ヒント

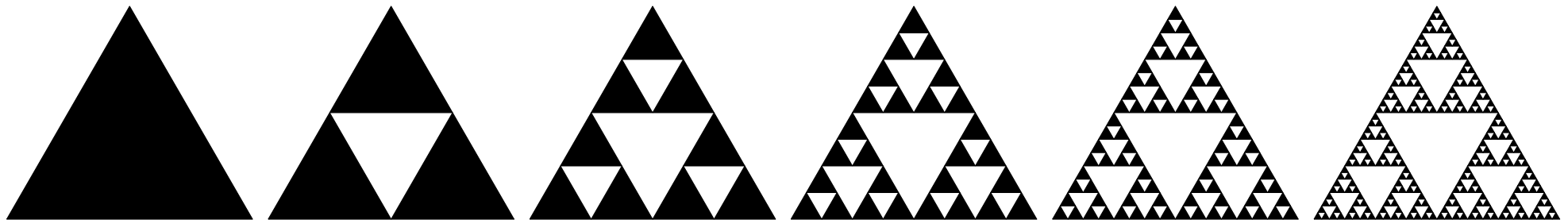
- まずは, 2 周期点 (これらを  $q_1, q_2$  とする) を求めよう.
- 周期 2 から周期 4 への分岐では, 2 周期解  $q_1, q_2$  が不安定化し,  $q_1$  の回りに安定な点が 2 つ,  $q_2$  の回りに安定な点が 2 つ, 合計 4 つの安定な点 (これらが 4 周期解に対応) が表れている.
- そこで, 2 回写像に関する  $q_1, q_2$  の安定性を議論すれば良い. つまり  $(f^2)'(q_1)$  と  $(f^2)'(q_2)$  を計算し,  $R$  の関数として表せば良い. その際,
  - 合成関数の微分則 (チェインルール)
  - 2 次方程式の解と係数の関係をつかうと計算が楽になる.

# Order within Chaos

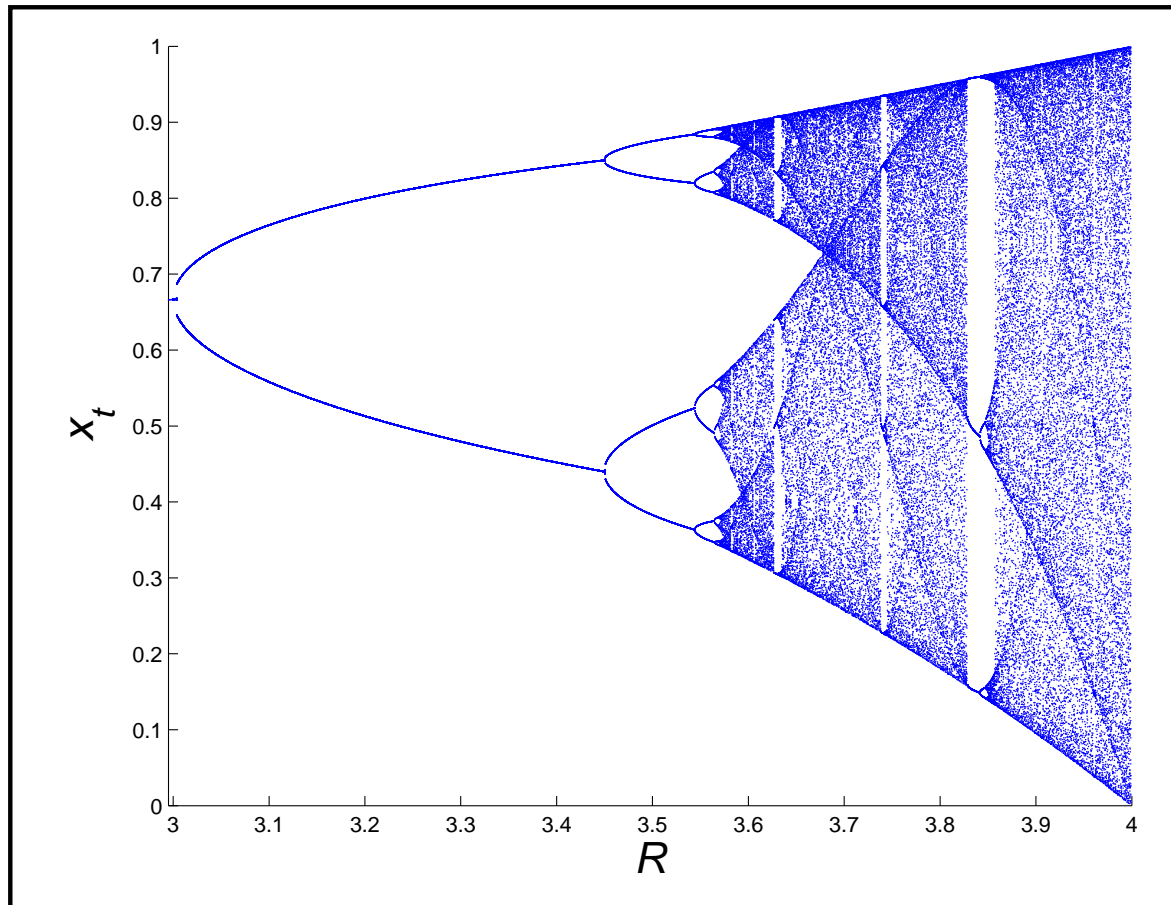


# フラクタルとは？

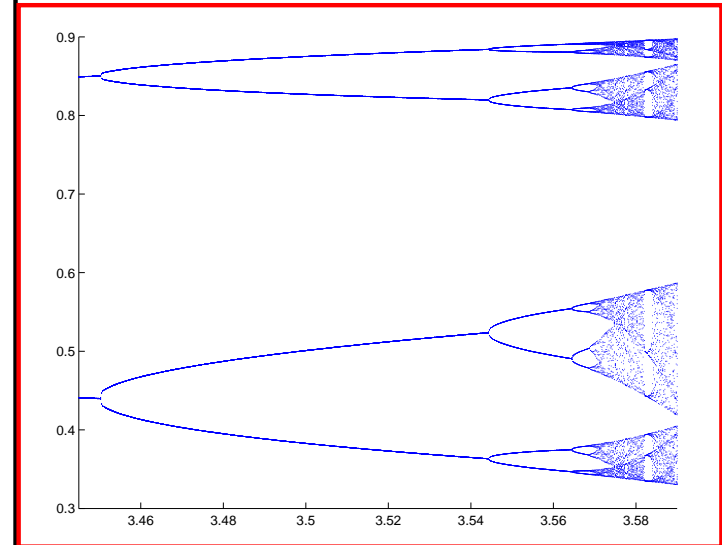
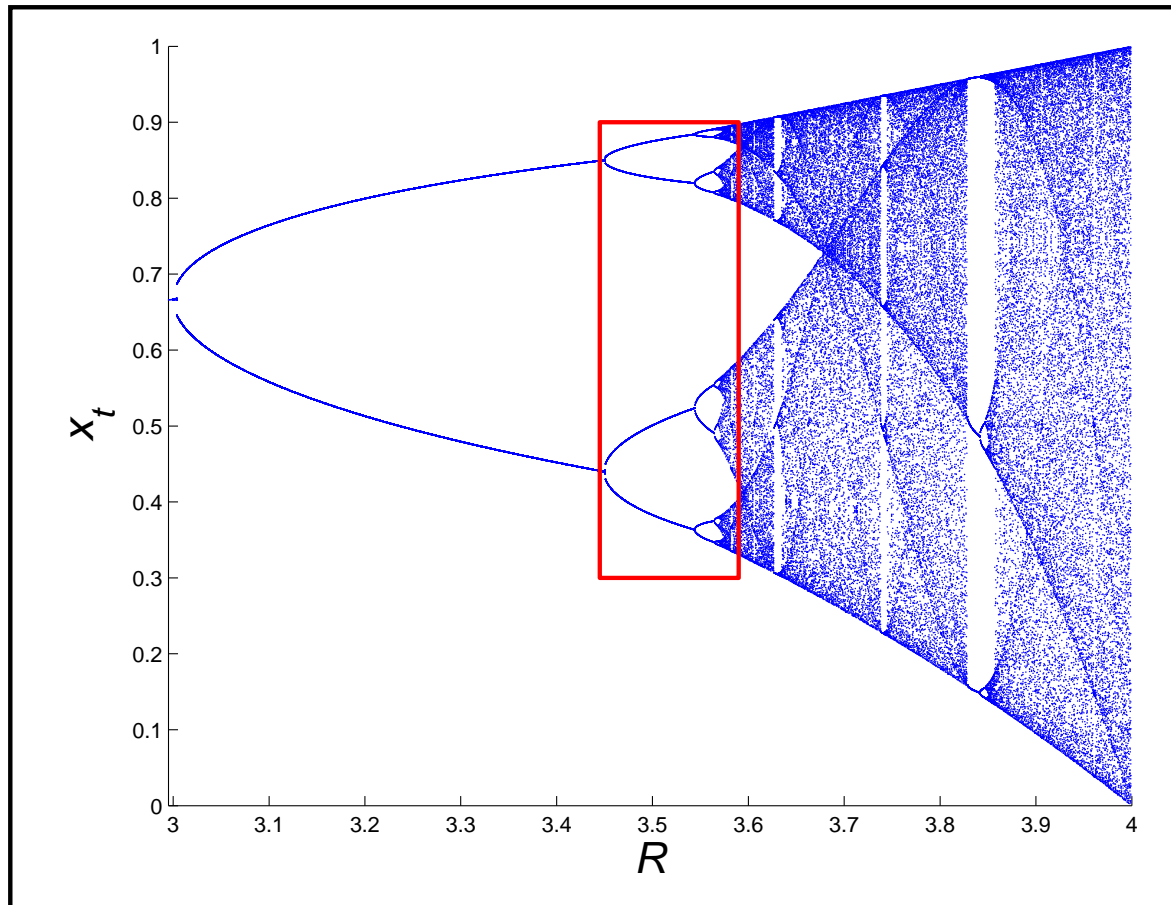
- ❑ 図形 (集合) の一部分を拡大すると, その図形と \_\_\_\_\_ が現れる
- ❑ 語源
  - Fractal – Benoit Mandelbrot, 1975
  - ラテン語の動詞 frangere → fractus
- ❑ ニュートンの図形観 ( \_\_\_\_\_ ) とは異なる考え ⇒ 要素に \_\_\_\_\_



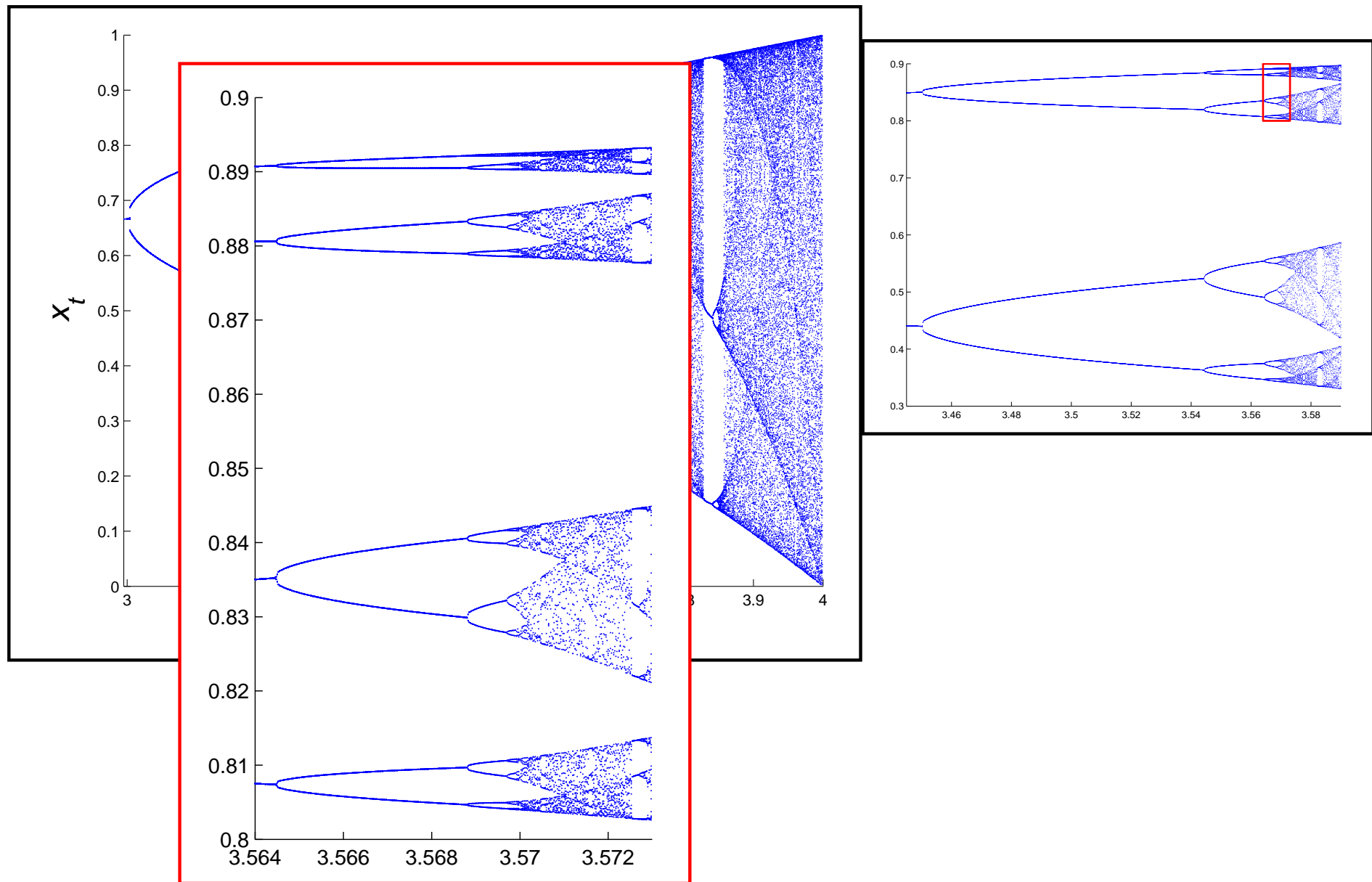
# 分岐図におけるフラクタル性



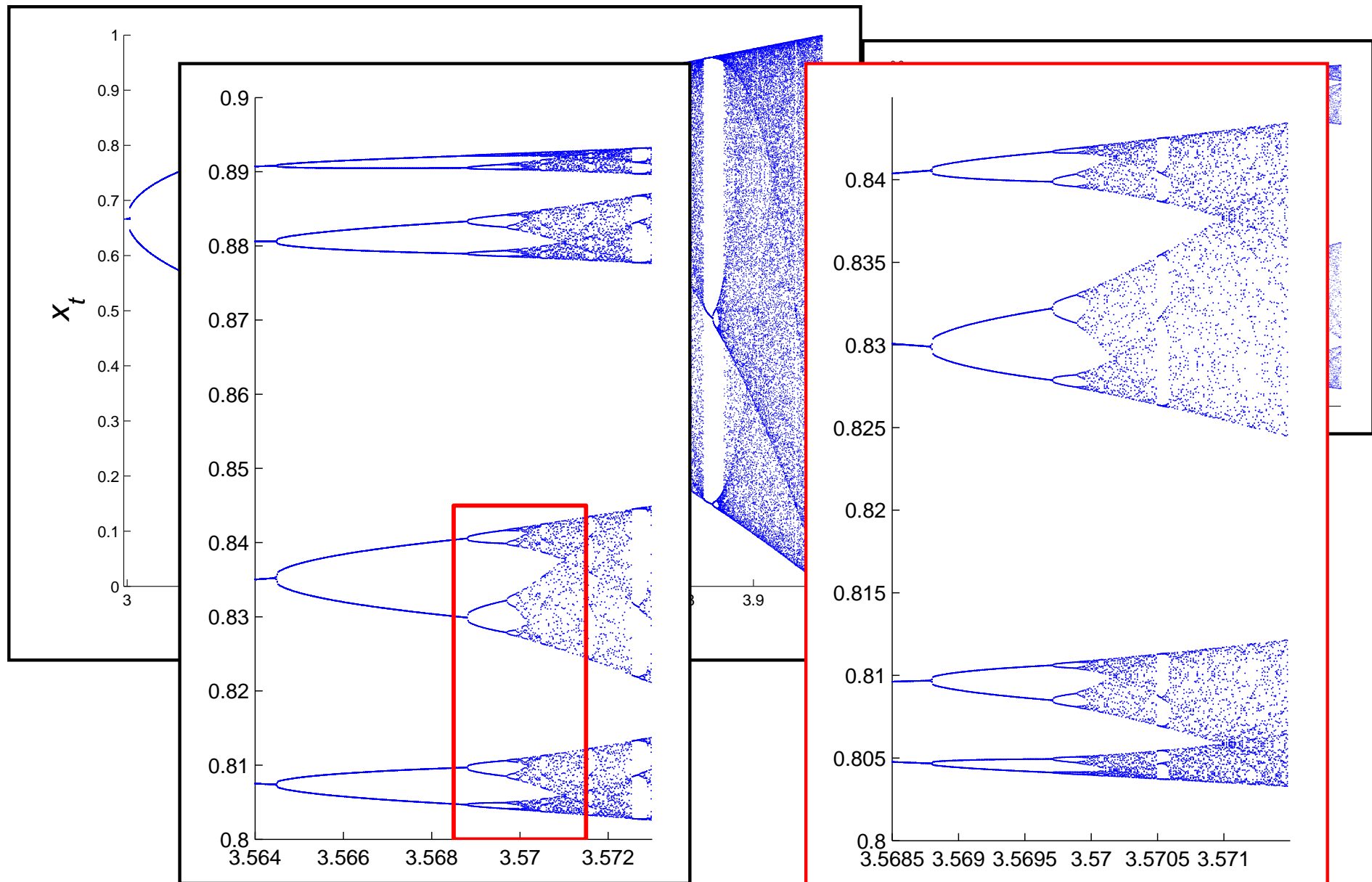
# 分岐図におけるフラクタル性



# 分岐図におけるフラクタル性

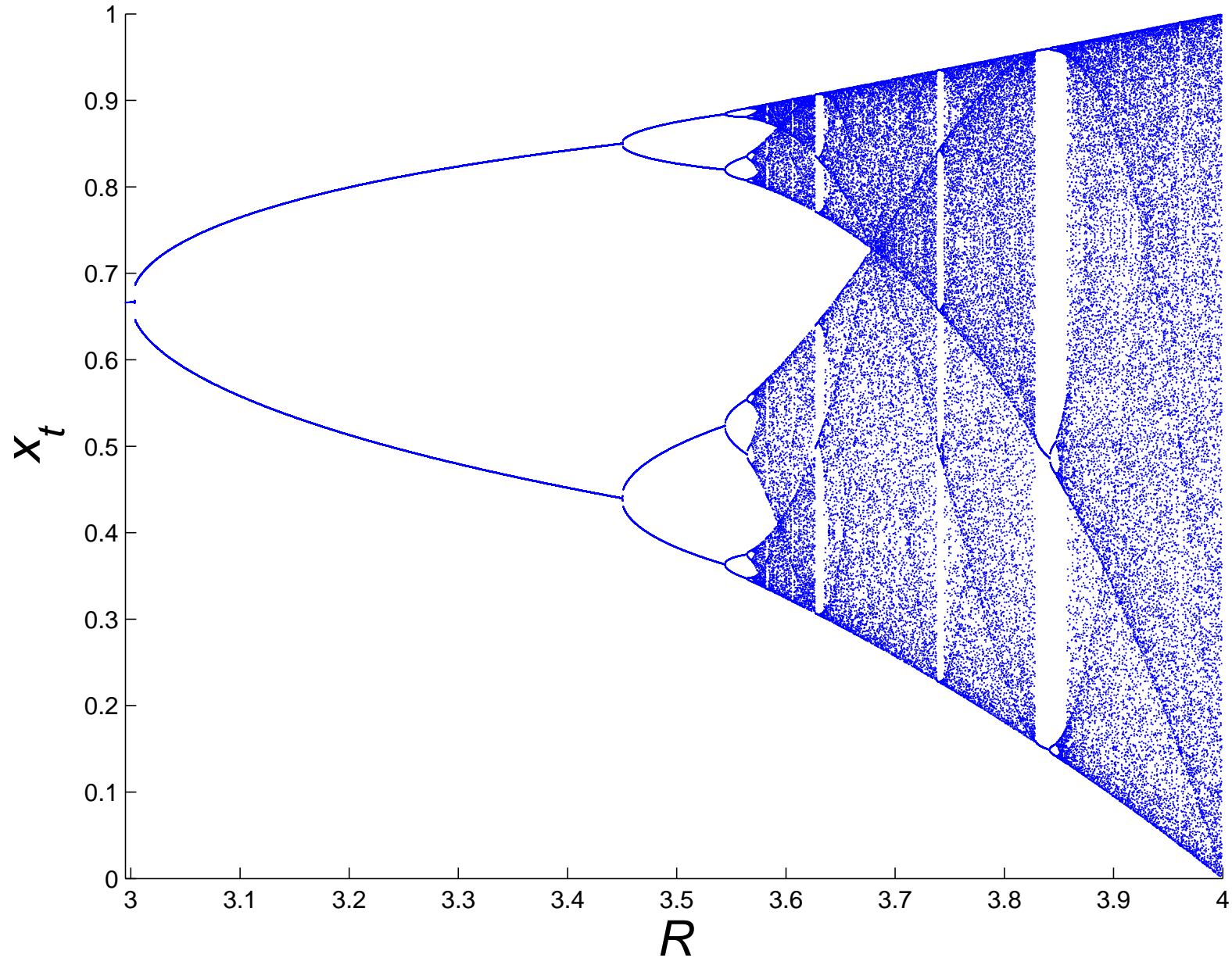


# 分岐図におけるフラクタル性

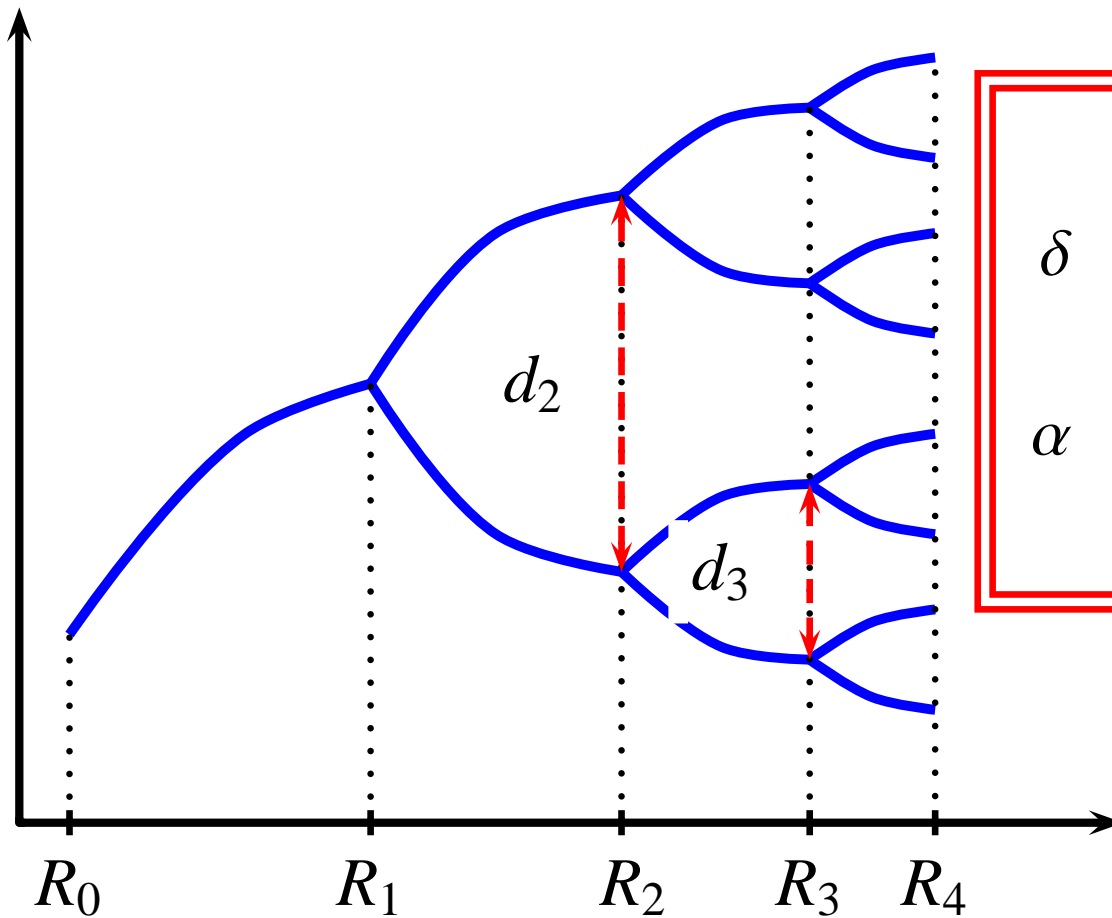




# ファイゲンバウム (の普遍) 定数



# ファイゲンバウム (の普遍) 定数



$$\delta = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{R_n - R_{n-1}}{R_{n+1} - R_n} = 4.669 \dots$$

$$\alpha = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{d_n}{d_{n+1}} = 2.5029 \dots$$

# ファイゲンバウム (の普遍) 定数

なぜこれが人々を驚かせたか？



# 参考資料紹介

- 早間 慧, (改訂増補) カオス力学の基礎, 現代数学社,

